

## Improvisation Basic vol.04 実質的には「“隣の音”か“離れた音”を弾く」と言う事

では、Improvisation Basic vol.04、始めていきましょう。

今回は、聞いてみれば当たり前の話なのですが、メロディー作りの重要な概念である、『順次進行』と『跳躍進行』について学んでいきましょう。

まず、それぞれの意味としては、

### 順次進行

⇒ 今鳴らした音から、その音階の2度(長、短)の範囲で音を上下に動かす(進む)事

### 跳躍進行

⇒ 今鳴らした音から、その音階の3度(長、短)以上の範囲で音を上下に動かす(進む)事

となっています。

例えば、Cメジャースケールで言うところの感じですね。

### 譜例 1、順次進行の例

Example 1: Sequential Progression. The notation shows a sequence of notes: G (5), A (6), B (7), C (3). The guitar TAB below shows the corresponding fret numbers: 5, 7, 5, 6, 5, 4, 5, 3.

### 譜例 2、跳躍進行の例

Example 2: Leap Progression. The notation shows a sequence of notes: G (9), A (10), B (11), C (12). The guitar TAB below shows the corresponding fret numbers: 5, 9, 5, 8, 5, 2, 5, 4.

跳躍進行の方は3度以上の音程変化を指すので、譜例2以外にもパターンがありますね。

メロディーを作る(奏でる)場合は、基本的にはこの2種類のどちらかで音が進行していくわけです。(※実際は、同じ音を連打する(同音進行)もあるのですが、和声と絡めて考える

事も多いので、ここでは割愛します)

で、最初に言った様に、これは当たり前と言えれば当たりの話なのですが、それぞれにきちんと効果(※受ける印象の傾向)があります。

まず、基本的な事として、音程は、

- ・上がる場合 ⇒ 開いて行く様な感じ(開放感)、気分が高揚する様な感じに
- ・下がる場合 ⇒ 閉じて行く様な感じ(閉塞感)、気分が沈む(≒落ち着く)様な感じに

なっています。(※大まかな傾向として)

そしてこの時、音と音の音程差が大きいほど、それぞれ受ける感じも大きく(強く)なる傾向になるわけですね。

なので、音程が上がるにせよ下がるにせよ、順次進行ならば段階的に、跳躍進行ならば一気に(※音程差が広いほど極端に)、それぞれの効果が出てくることになります。

これはどうしても、音程が上がりながら雰囲気を下げていくのは難しく、逆に音程を下げながら雰囲気を上げていくのは難しいわけです。

### 譜例3、音程が上がると雰囲気も高揚する傾向

CM7 Am7

mf

TAB

8-10 7-8-10 7-9-10-12 9-10-12 10-13 12-13 5 7-8 5-7-8 5-7-9-10 9 8-10-12 10-12

### 譜例4、音程が下ると雰囲気も沈む傾向

CM7 Am7

mf

TAB

12-10 13-12-10 12-10-9-7 10-9 10-7 8-5-3 5 17-15-13 17-15-13 16-14-12 14-10 12-8 10-7-5

※一応譜割りを付けていますが、あまり気にせずじっくり弾いてください。

これらの譜例は、普通のメジャースケールとナチュラルマイナースケールを使って、順次、跳躍の両者の進行を含めたフレーズです。

聴いての通り、音程自体のアップダウンによる雰囲気の上昇、下降は、メジャー or マイナーの明るい or 暗いとは別の要素として関わってきます。

響きが明るいスケールでも、音程が下がって行けば落ち着いて行く傾向にありますし、逆に暗いスケールでも、音程が上がって行けば高揚感が出てくる、と。

そして、先ほども同じような事を書きましたが、ここにさらに、順次、跳躍の概念を絡めていくと、

- ・ 順次進行 ⇒ じわじわと(≒滑らかに)その印象に向かっていく
- ・ 跳躍進行 ⇒ 一気に(≒大きな振れ幅で)その印象に向かっていく

と言う効果をコントロール出来る事になりますね。

#### 譜例 5、音程 UP、順次進行、跳躍進行(3度)、跳躍進行(5度、4度)

CM7

7 8 9

T 5-8-7-10-8-12 10 13 12 15 13 17 15 19 17 20

A 4-5 4-5-7 5-6-8 20 20

B 8-8 5-7-8 5-7 7 15 15 17 17 20 20

この譜例は、音程が上がっていくパターンで、小節が進むにつれて音程幅が広がる様に作ったものです。

聴いての通り、順次よりも跳躍の方が劇的さが増し、音程が広いほど効果が高まりますね。

#### 譜例 6、音程 Down、順次進行、跳躍進行

Am7

5 6

mf

T 17-15 18-17-15 17-12 17-12 16-12-10 14-10

A 17-16-14-12 15-14-12 15-14-12 14-10 14-10-7 10-8-7-5

B 15-14-12 15-14-12 14-10-7 10-8-7-5

こちらは音程が下がっていくパターンですが、UPの時と同じ様に、音程差があるほど大きく雰囲気は落ち着いて行きます。

このテキストでは、解説の為に「上がるなら上がり続ける、下がるなら下がり続ける」と言うタイプの譜例にしました。

ですが、普通のフレーズはアップダウンのどちらか一方だけに偏ることは少なく、大概の場合、上下を繰り返しながら、目的の音に進んでいきます。

今回やった様なものは、大元の基本として、自分のフレーズ作りに活かしてみてください。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼